

教科別研修講座報告

平成 30 年 8 月 1 日 (水)

C611 中学校英語科研修講座

「新学習指導要領と

CAN-DO リストを踏まえた語彙指導のあり方」

講師 東京外国語大学教授 投野由紀夫 氏

〈内容の詳細〉

1 SASA2017 の報告と語彙指導の研究の中間報告 (報告)

- ・SASA2017 調査結果から見えた課題およびその課題を改善する活動例の紹介。
- ・研究協力校における語彙指導の実践についての中間報告。

2 新学習指導要領と CAN-DO リストを踏まえた語彙指導のあり方 (講義)

- ・よく使われている語とはどのようなものか。簡単に見える語ほど多義であり、その組み合わせが「斬れる英語」を作る。語彙には身につけるべき深さがある。
- ・語彙指導の4箇条(①単語の目利きをさせる、②語彙の種類とレベルに応じた練習法、③100語の単語＋3000語の単語、④「使わせる」ための時間配分)
- ・自分で勉強する生徒をどのように育てるか。

3 語彙指導に焦点を当てた授業づくり (演習)

- ・New Horizon 1 Unit3-2を使った授業をグループごとに発表と、先生からのご助言。
- ・本文の中で1番使う語を取り出し、その語の様々な使われ方に触れさせることが大切。



〈受講者の声〉

- ・実際のコミュニケーションの中で使われている膨大な数の単語から、軽重を付けて語彙指導をしていくことの大切さが裏付けされていて、非常にわかりやすかったです。コミュニケーションを重視するあまり、それを支えるはずの語彙指導が充実していないことを思い出ことができました。
- ・語彙、カリキュラム、CAN-DO、全てが繋がっていて、教師がきちんと教材分析をしていないといけなかったと思います。コーパスを活用した語彙指導について、全てを丸暗記させがちだったが、重要語彙をスパイラルに扱う方法はぜひ実践したいと思いました。
- ・数字に説得力があり、必要な語彙というものが抽出されると学習者としてもすっきりしました。これを自分の生徒にも感じさせたいです。
- ・コアとなる語彙を意識し、生徒が将来的に発信できる語彙を増やすよう指導を改善していきたいです。また、1つ1つの語の意味だけでなく、使い方を含めて立体的な指導を心がけます。
- ・自分が語彙について重要度を見分けられないといけなかったと思い、夏休みは勉強して休み明けの授業に活用しようと強く思いました。